

23PO-am353

保険薬局におけるスマホ血压計の活用に関する研究2・患者による評価

○関根 祐子¹, 高橋 蓮², 神林 隆一³, 長澤 (萩原) 美帆子³, 石川 雅之¹, 杉山 篤³(¹千葉大院薬, ²千葉大薬, ³東邦大医)

【目的】わが国の高血圧と推定される人口は約4千万人にのぼると言われ、毎日家庭血圧を測定することが推奨されているが、家庭血圧測定では測定忘れや記録値の改ざんなどアドヒアランスの低さが課題である。この課題を解決するために我々はスマートフォン対応血圧測定器（以下スマホ血圧計）を開発し、第50回日本薬剤師会学術大会で薬剤師によるスマホ血圧計の活用方法や問題点の評価について報告した。本研究では、患者・利用者によるスマホ血圧計の評価とスマホ血圧計使用による意識・行動の変化について検討することを目的とした。

【方法】保険薬局来局者または健康フェア参加者などのうち、高血圧治療中または血圧コントロールに積極的な成人16名にスマホ血圧計を1日2回以上2週間使用してもらい、使用前後にアンケート調査を行った。

【結果】血圧計の故障により測定を行えなかった1名を除いた15名全員から回答を得た。血圧測定アドヒアランスは平均72.4%だった。また、自分の血圧が高いと認識したことで服薬アドヒアランスや生活習慣、薬剤師への相談意欲などが向上した参加者が見られた一方で自身の血圧が安定していると判断して意識が低下してしまった参加者も見られた。また、スマホ血圧計の構造・機能・表示などについては様々な指摘や要望が寄せられた。

【考察】スマホ血圧計は様々な改良点を有するが、家庭血圧の把握に寄与し血圧への関心を高めることが示唆された。一方、測定結果の捉え方は使用者により異なること、薬剤師による必要に応じた適切な介入が必要であることが明らかとなった。測定結果を有効に活用することで健康サポート活動をはじめとした保険薬局業務の推進に寄与する可能性が示唆された。